

## 基本的な考え方

- コロナ禍でも、課題対応が「どう進んでいるか」を見るための指標は必要。
- 医療健康に関するデータ収集システムの欠陥について、抜本的な見直しと改善が必要。
- これまで用いてきた指標・データを新しい仕組みで手に入れる工夫と、
- 既存の指標・データに代わる、あるいは補完する新しい指標・データを発掘・作り上げる工夫が求められる。
- さらに、感染症対策を踏まえ、前例にこだわらない代替的（補完的）な KPIを立てることも検討すべき。

### ① データ取得の工夫や活用の視点

- 医療機関からの「紙ベース」の調査から、「デジタルベース」への転換。
- 国や自治体等がレセプトデータから診療実績を自動推計できる仕組みの構築。
- オンライン診療の普及と社会経済のデジタル化を踏まえたキャッシュレス決済の拡大を踏まえた決済データ（クレジットカードなど）を有効に活用できる仕組みの整備。
- 医療機関でなく保険者から直接円滑にデータを取得する仕組みの検討。（すべての保険者が正確に加入者の受診有無を把握し、報告できる仕組み）
- 地域別や、月次のデータを手に入れることで、現象の要因分析（感染症、災害）が可能となる期待。

### ② データの活用を前提とした環境整備

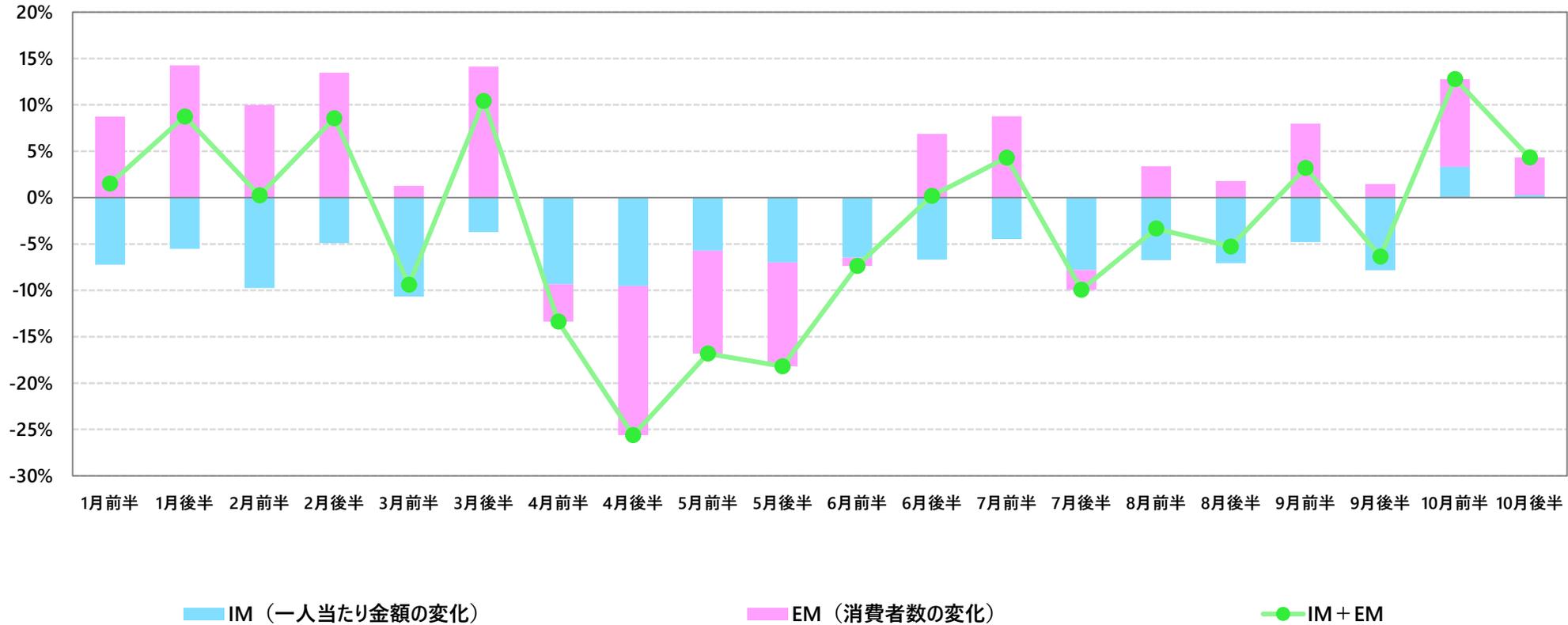
- 個人単位でのデータ連結を念頭においた取り組み（マイナンバーカード）。
- 幅広い分野とのデータ連携による健康増進に資する仕組みの構築。
- 電子処方箋を軸にしたオンライン服薬指導、調剤、薬剤の発送、キャッシュレス決済までを一気通貫でつなぐ仕組みの構築（プロセスのデジタル化）と副産物として生成される医療健康データの活用。
- 個人情報の「保護」と「活用（流通）」のバランス。

### ③ その他の論点

- 特定健診、がん検診など各種健診の効果を再評価。
- 地域の医療データ（インフラを含む）を都市再生・まちづくりなどの幅広い行政分野で活用できる仕組みの検討。
- 医療分野の決済データ等を有効に活用できる仕掛けの検討（医療機関の区分や診療区分表示の標準化）。
- 収集した（または収集可能な）データをどれだけ分析し、様々な施策の効果を検証できたか、調査が必要（COCOA やコロナ関連レセプトデータ等）。

# クレジットカードデータによると、病院診療は4月前半から5月前半にかけて大きく落ち込み、その後緩やかに回復傾向

## 医療支出（前年同期比）



出所：ナウキャスト、ジェーシービー「JCB消費NOW」

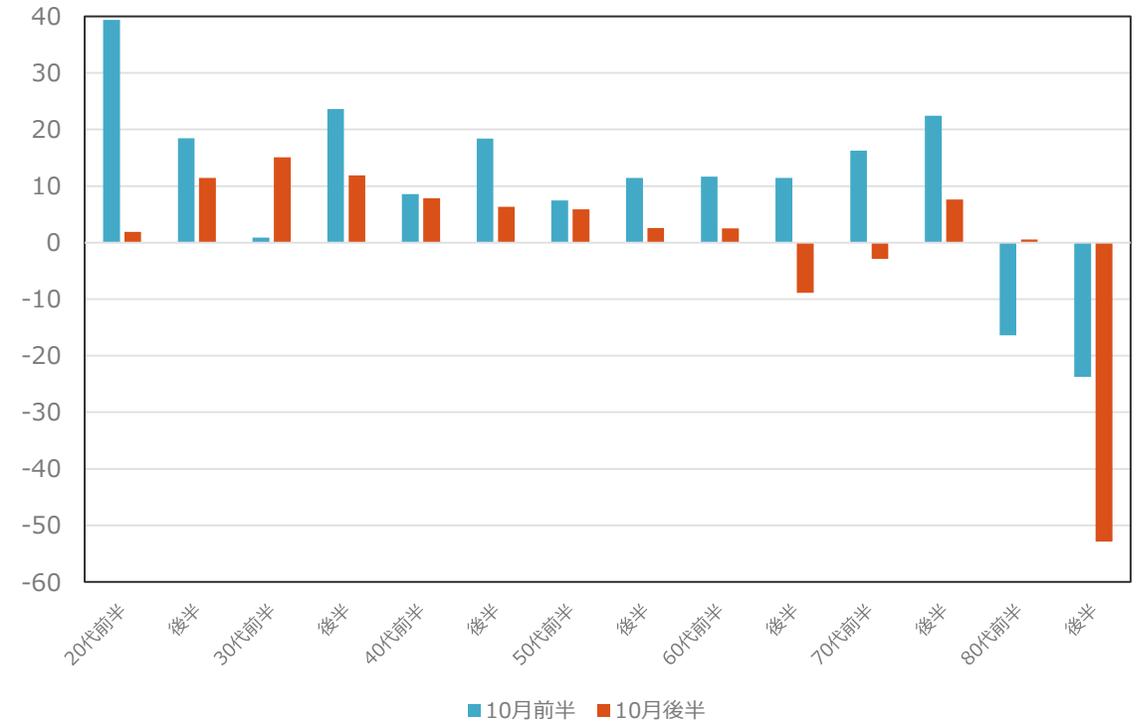
# 個人の属性情報を活用した深掘した分析

## 男女別の医療支出の前年比



女性のほうが緊急事態宣言中の受診回避の傾向がみられる

## 年齢別の医療支出の前年比



80代以上の高齢層が受診回避の傾向がみられる

出所：ナウキャスト、ジェーシービー「JCB消費NOW」

# 社会保障における決済データ活用の可能性

- ✓ 同様の分析は病院以外にも、調剤薬局やドラッグストア、それぞれのECでの動向などを捉えることが可能
- ✓ また、下記の匿名加工情報を活用することで、受診者の性別・年代・住所の区分毎に深掘した分析をすることも可能
- ✓ 将来的にはこうした決済データと病歴データを組み合わせることで、疾患・疾病の要因となる生活習慣を把握し、予防医療に役立てるということも可能

## ■ 匿名加工情報

プライバシーが保護されており、人単位での分析が可能のため有用性が高い。

SEQ	カード番号	氏名	住所	年代	性別	入会日	ご利用日	金額	店舗情報
1	-	-	東京都	25-29歳	男	2014年5月	2018年5月1日~15日	5,000円	スーパー
2	-	-	大阪府	70-74歳	女	1990年9月	2018年5月1日~15日	3,000円	スーパー
3	-	-	鳥取県	30-34歳	女	2005年10月	2018年5月1日~15日	1,000円	スーパー
4	-	-	東京都	25-29歳	男	2014年5月	2018年5月1日~15日	4,000円	スーパー
5	-	-	東京都	25-29歳	男	2012年9月	2018年5月1日~15日	2,000円	スーパー

## ■ 統計情報

プライバシーは保護されているが、情報が集約され有用性が低い。

住所	生年月日	性別	合計件数	合計金額	利用店舗業種
東京都	25-29歳	男	3	11,000円	スーパー
大阪府	70-74歳	女	1	3,000円	スーパー
鳥取県	30-34歳	女	1	1,000円	スーパー